

## 令和4年度 S S T A 岐阜支部 活動報告

### ○令和4年度の活動内容について

#### (1) S S T A 中部エリアテーマ研修会

今年度より、従来の研修から開催形式の変更や宿泊日数の縮小がなされた「エリア別テーマ研修会」がスタートした。その第1回目が岐阜県で開催されました。事前分科会を3回（前年度に1回、4～6月中旬に2回）実施し、「S S T A 中部エリアテーマ研修会 岐阜県大会」が8月6日（土）開催され、盛況のうちに終わることができました。研修会本番では、講師として岐阜聖徳学園大学教育学部教授の川上紳一先生をお招きし、各支部からの研修員の先生方の研究実践と、その成果と課題についての交流会を行うとともに、これらの内容についてご講評をいただきました。

※研修会の詳細な内容については、別紙報告書をご覧ください。

※中部エリアの先生方の取組内容については、研修会を通して作成したレポートを、中理研のホームページに掲載し、閲覧できるようにしていく予定です。

#### (2) 令和4年度 S S T A 事業報告

〔目的〕	・岐阜県小中学校理科教員の連携の場として、小中学校の教員が相互に交流することで、理科教員の資質向上を図り、岐阜県の理科教育の発展に寄与する。		
〔方針〕	・理科教育研究を本旨とする民主的団体として活動し、営利的、宗教的、党利的のいかなる団体にも関係しない。 ・運営は自主的に行い、他のいかなる団体からも支配されず、干渉を受けることはない。		
月／日（曜）	事業	会場	摘要
4／24（日）	エリア別テーマ研修会 第2回事前分科会	オンライン開催	<b>【エリア別テーマ研修会参加者】</b> ○小学校部会 日下部智也（太田小） 河瀬順平（柳津小） ○中学校部会 高木力斗（糸貫中） 佐藤秀行（美濃中） ○分科会担当者 堀祐太郎（牛牧小） 上原純（付属） 塚原公俊（桜ヶ丘中）
5／21（土）	S S T A 岐阜総会 （小理研・中理研合同）	オンライン開催	
6／4（土）	全国三役会議	オンライン開催	
6／18（土）	エリア別テーマ研修会 第3回事前分科会	オンライン開催	
8／6（土）	エリア別テーマ研修会 岐阜県大会	オンライン開催	
10／8（土）	全国三役会議	オンライン開催	
12／4（日）	エリア別テーマ研修会 全国交流会	オンライン開催	
備考	※エリア別テーマ研修会については、昨年度より事前分科会を実施してきた。 小学校部会、中学校部会にそれぞれ岐阜支部から分科会担当者を位置付け、各分科会で研究討議を進めてきた。		

### ○S S T A の今後の活動について

令和5年度より、岐阜支部としてS S T Aの活動を行いません。S S T Aの活動に興味があり、研修等に参加してみたいという方がいた場合、窓口となる担当者を通じて、個人的に参加してもらう形をとる方針です。（窓口となる担当者は、来年度の役員の決定に準じる）

## 2022年度 SSTAエリア別テーマ研修会 活動実施報告書

エリア名 中部 担当常任理事 小林俊男・加藤 祐介

- ◆活動実施日 2022年 8月 6日 (土)
- ◆活動の名称 中部エリア別テーマ研修会
- ◆参加対象者 中部エリア常任理事, 企画運営委員  
各支部三役 (支部長, 事務局長, 研修リーダー)  
中部エリアのSSTA会員及び研修者  
中部エリア各支部からの一般参加者
- ◆参加人数 45名

◆研究テーマ

**【全国テーマ】 科学が好きな子どもを育てる授業の創造**

**【中部エリアテーマ】  
科学の面白さを味わう理科学習の創造 ～理科を学ぶことの意味や有用性を実感する子を目指して～**

理科学習において、子供たちが柔軟に発想することができるような機会、実生活・実社会と学んだことを結びつけるような機会を作る必要がある。岐阜県においては、「もので始まり、もので追究し、もので終わる」、「つなげる」をキーワードとして、子供たちの学びを実生活や実社会とつなげることを実践してきた。理科学習において、よりリアルな場や物を活用した体験活動を工夫したり、タブレット端末などを活用して、学びをより実生活・実社会と結びつけるような工夫をしたりすることで、子供たちが理科を学ぶ意義や有用性を感じることができると考え、研修テーマを設定した。

◆具体的な活動内容および時程

時間	内容
8:30~	受付 オンライン入室可能
9:00~9:20	開会式 ①SSTA 理事長 挨拶 吉永公紀 様 ②SSTA 中部エリア常任理事 挨拶 小林俊男 様 ③SSTA 岐阜支部会長 挨拶
9:20~9:30	企画運営委員からの報告 ・トップリーダー研修についての報告
9:30~9:50	全体会 ・各分科会からの提案
10:00~11:40	分科会 ・研修員による実践報告 ・各実践についての意見交流
11:50~12:10	講師からの講評 ・岐阜聖徳学園大学教育学部 川上紳一教授
12:15~	閉会式・連絡事項

## ◆研修の様子

### 【全体会】

各部会から「生活につながる理科」とは、どのような授業か、また、子どものどのような姿を目指すものなのかについて提案がありました。そして、「生活につながる理科」の実現のための実践計画について提案していただきました。

#### ○小学校部会①からの提案

- ・「生活につながる理科」とは  
理科の学びによって、子どもたちの生活がより良くなったり、困り感が解決できたりすることを実感する。
- ・実践計画1：子どもたちの願いや困り感の顕在化
- ・実践計画2：地域教材の活用
- ・実践計画3：ICT機器の活用

#### ○小学校部会②からの提案

- ・「生活につながる理科」とは  
身の回りの現象や社会と理科との関わりから興味・関心を引き、学びを実生活に生かす授業
- ・実践計画1：単元を通して実生活とのつながりを考える
- ・実践計画2：専門家や他県とのつながりを通して、学びや考えを関連付けたり、比べたり、生活に生かされていることを実感する。

#### ○中学校部会からの提案

- ・「生活につながる理科」とは  
身のまわりのものや現象への疑問から課題化し、結果をもとに、既習内容や生活経験とつなげて考察することで、わかったことを日常とつなげて考えることができる理科の学習である
- ・実践計画1：導入において、日常生活での疑問から課題化し、生徒の思考に沿った自由度のある活動を通して、課題解決に向学習指導
- ・実践計画2：学びを確かめる単元の出口や、単位時間の終末における展開の工夫
- ・実践計画3：地域素材や実社会との関わりを活用した学習計画

### 【分科会】

ZOOMのブレイクアウトセッションを活用し、研修員の先生方を3つのグループに分け、それぞれの実践内容について発表していただき、その内容について質疑応答、研究討議を行いました。

#### ○分科会①

气象台や地域の専門家の方を講師として招いて授業を行うことで、より深い学びにつながるような手立てがとられていました。タブレットの集団学習アプリの活用やインターネットによる情報収集を行う等、ICTを積極的に活用した実践も多数見られました。

#### ○分科会②

外部の企業と連携をとることで、より深く、発展性のある学習につながっている実践が多く見られました。更に、社会科や総合的な学習とも関わらせるなど、教科横断的な学習にもつながっている実践もあり、理科の授業の枠を越えた幅広い学びについて議論がなされていました。

#### ○分科会③

実生活とのつながりを意識した授業実践が討議の中心となるとともに、ICTを活用した授業実践も話題となり、学校教育の今日的な課題に沿った学習の在り方について多くの議論がなされていました。

中部エリア研修を通して、岐阜支部からの提案を受け、各支部の先生方がそれぞれにご実践を進めていただきました。岐阜支部が提案する「生活につながる理科」の学習の実現のために、それぞれに工夫されたご実践について交流するとともに、その内容について、活発な意見交流、研究討議が行われました。「実生活・実社会につながる」ことや、「もので始まり、もので追究し、もので終わる」岐阜のこれまでの実践にご賛同いただき、研修員の先生方がそれぞれ岐阜にならってご自身の研究実践を進めていただけたことや、それに対して各自が明確な視点や考え方をもち研究討議に臨んでいただけたことが窺えました。

また、企画運営委員の先生方には、ファシリテーターとして分科会に参加していただき、各実践についてご意見、ご助言をいただきました。

### ○講師の先生のご講話より

(岐阜聖徳学園大学教育学部 教授 川上紳一先生)

中学校部会のイオンの学習について、日常生活とつなげる工夫がなされていた。イオンの概念について、基本的な知識についての指導についてもクローズアップされるとさらによい。化学分野の実践が多くあったが、どれも日常生活とつなげて考えさせるための授業展開になっており、岐阜支部が提案する理科の学習を具現しようとする先生方の努力が多数見受けられた。

小学校部会の実践について、家庭にある食材、素材を持ち寄らせて学習を進めている実践が面白かった。家庭と学校での学習をつなげるための手立てがなされていた。授業で扱ったもの以外にも、様々な素材を活用して同様の方法で追究できそうだという、さらなる学習の広がりにつながる手立てであった。

小学校部会の天気学習について、地学分野については時間的・空間的な広がりという概念に基づいて学習を進めることが重要である。天気の変化は、地球全体の大気の循環が大きな影響を与えている。天気の変化にとどまらず、虹や空の色など、日常的にみられる気象現象について興味・関心の対象を広げることで、身のまわりの科学的現象について着目する子どもの目を育てていけるとよい。

日常生活と理科をつなげるために、一つの事象を多面的・多角的に見たり考えたりすることが大切である。こうした見方や考え方が、子どもの生き方にもつなげていくことができ、理科の有用性をより実感できることにつながると思う。

多くの実践が岐阜支部からの提案を受けて、「実社会・実生活につながる理科」を具現したもののばかりで大変すばらしかった。

### ◆終わりに

岐阜支部からの提案を受け、研修員の先生方それぞれが工夫した実践に取り組み、それが中部エリア内の各支部の先生方同士で交流し合えたことが大きな成果であると考えます。研修員の先生方や、一般参加の先生方には、2学期以降の自身の実践につなげていきたいという意欲を持っていただきました。

今後は小学校部会1, 2, 中学校部会の3部会のそれぞれの発表内容等について、最終的にレポートにまとめ、各部会の提案、実践内容、成果と課題等について集約していきます。

最後に、エリア別テーマ研修会に研修形態が変わって最初の開催支部ということや、オンライン開催という、ノウハウのない状況の中でスタートしましたが、各支部の参加者の先生方や企画運営委員の先生方の協力により、無事に会を終えることができました。貴重な研修の機会を与えていただき、ありがとうございました。支えてくださったSSTA関係者の皆様、各支部の先生方に心より感謝申し上げます。